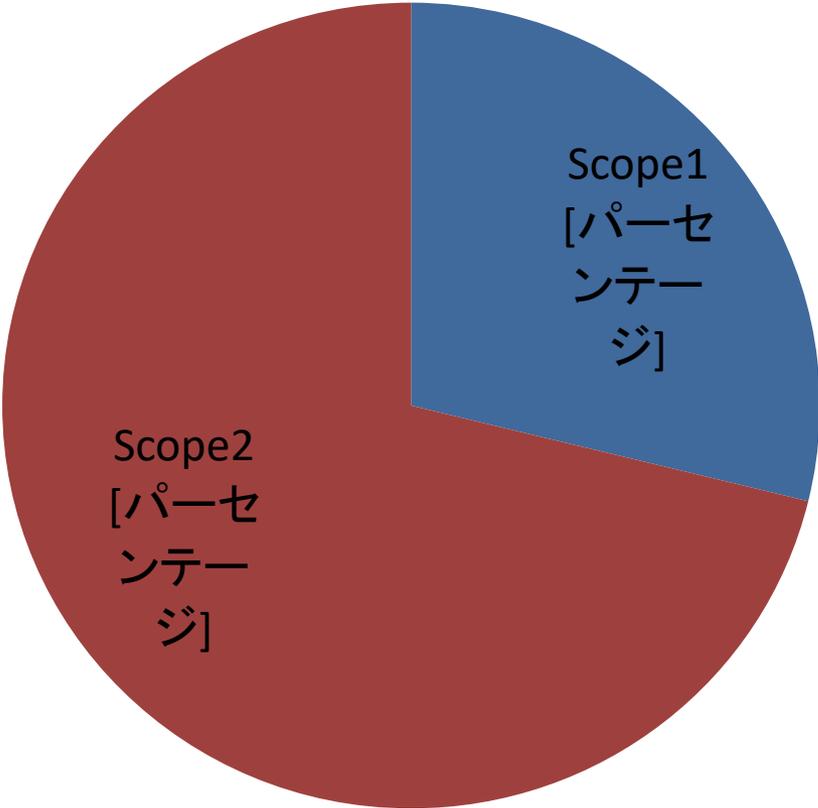


株式会社TBM

項目	内容
1.企業情報	<ul style="list-style-type: none">● 業種：製造業● 事業概要：LIMEX及びLIMEX製品の開発、製造、販売● 事業規模：社員 139名（株式会社TBM単体・2019年12月現在）
2.削減目標案	<p><Scope 1・2の削減目標と削減に向けた取り組み> 電力の再生可能エネルギー化を推進し、 2025年までに再生可能エネルギー由来電力比率100%を目指す。</p> <p><Scope 3の削減目標と削減に向けた取り組み> バイオマス素材の活用、原材料の地産地消、リサイクル・アップサイクルの推進に取り組む。</p>

株式会社TBM

項目	内容							
3.基準年のGHGインベントリ[数値は任意]	<ul style="list-style-type: none">● Scope 1・2・3の排出量の状況  <table border="1"><caption>GHG Emissions by Scope</caption><thead><tr><th>Scope</th><th>Percentage</th></tr></thead><tbody><tr><td>Scope 1</td><td>24.5%</td></tr><tr><td>Scope 2</td><td>75.5%</td></tr></tbody></table>	Scope	Percentage	Scope 1	24.5%	Scope 2	75.5%	<ul style="list-style-type: none">● SCOPE1 : 332.0[tCO2]
		Scope	Percentage					
		Scope 1	24.5%					
Scope 2	75.5%							
<ul style="list-style-type: none">● SCOPE2 : 820.4[tCO2]								
<ul style="list-style-type: none">● SCOPE3 : [tCO2]								

株式会社TBM

項目	内容
4.気候変動によるリスクと機会の分析	<ul style="list-style-type: none">● 今後の再生可能エネルギーの導入により、製品製造に伴って排出されるGHGの削減が見込めるため、将来的な炭素税等による財務影響抑制につながる可能性がある。● 原材料へのバイオマス素材採用や再生可能エネルギーの活用による製品ライフサイクルのGHG排出量低減が、Scope3排出量の低減を目指す企業による当社製品の採用に繋がることが予想される。● 未上場のうちから気候変動対策をはじめとするESG情報を積極的に開示することで、資本調達コストを低減するとともに、サステナブルブランドとして優秀人材を惹きつけられる可能性がある。
5.削減目標設定の背景・目的・期待する効果など	<ul style="list-style-type: none">● サステナビリティを強く志向する組織として、短期的な目標だけでなく、長期的なGHG排出削減目標を打ち出すことで、当社のコミットメント、本気度を社内外に発信することを目指している。● サステナビリティを追求する事業パートナーとの協働による革新的な製品の創発、他のベンチャー企業によるサステナビリティ取り組みの推進を触発したい。

株式会社TBM

項目	内容
6.目標設定のプロセスと社内の議論	<ul style="list-style-type: none">● サステナビリティチームで目標案を検討、CEO・役員・社外専門家も交えたサステナビリティ委員会で提案、委員会でのコメントを受けて一度再検討し、コンセンサスを得て策定に至った。● 以前より長期目標設定の必要性は社内で共有されていた。具体的な数値への落とし込みに向けたサステナビリティチームの提案内容に対し、より野心的な目標を設定しようサステナビリティ委員会でコメントがあり、今回の野心的な目標設定に至った。
7.今後の課題	<ul style="list-style-type: none">● ものづくりベンチャー企業として、この目標を可能な限り早期に達成し、成功事例を社会に提示しなければならない。● Scope1・2の削減に向けて再生可能エネルギーを調達する必要があるが、特に日本においては再生可能エネルギーの価格が高いため、製造コスト増をどうやって吸収するかが課題。● Scope3（特にカテゴリ1・4・9）の正確な把握のために、関連事業者における排出量を管理するためのデータの収集が課題。